

2019年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473500708	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホーム湘南かさま		
所在地	( 247-0006 ) 神奈川県横浜市栄区笠間3丁目20番27号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和元年9月26日	評価結果 市町村受理日	令和1年12月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人グループとの連携をとり、24時間体制での医療連携と「その人らしさ」を尊重した「お看取り」までのトータルケアを日々実践している。慢性的な人材不足が問題としてあるものの、入居者様本位の最良のケアを提供していくため、「入居者様の思い」「ご家族様の思い」に寄り添い、安全で安心できる環境作りを心掛けている。訪問看護では、浣腸等主治医の指示書のもと、職員では出来ない処置を、適切に行ってもらっている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和元年11月6日	評価機関 評価決定日	令和1年12月12日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR大船駅よりバスで5分程の「笠間町」バス停で下車し、徒歩5分程の所にあります。周辺には障がい者支援施設、保育園、公園、大型マンションや一戸建て住宅などがあります。運営法人は、全国に多くの介護保険事業を展開し、法人間で、医療・介護の連携を密接に行なっています。

<優れている点>

地域との良好な関係を築いています。町内会の盆踊りや老人会などの行事に利用者と共に参加しています。また、近隣の障がい者支援や高齢者施設、保育園などと互いに行き来し合い、地域のボランティアの来訪もあります。今年度は、青森県での日本認知症グループホーム全国大会で地域と密着連携出来るようになった経緯を「地域住民として生きる」取り組みとして発表する予定でしたが、残念ながら台風19号のため行くことが叶いませんでした。運営推進会議は、連合町会々長、町内会々長、社会福祉協議会々長、区役所、地域包括支援センター職員、民生委員、障がい者支援施設職員、保育園々長、家族、利用者など実に多数の参加があり、地域の情報を共有し、有意義な情報交換の場となっています。

<工夫点>

一日の血圧の変動に気をつけ、朝夕以外にも血圧を測っています。また、飲みにくい粉薬をアイスクリームに混ぜるなど、利用者が安全安心に過ごせるように支援しています。業務日誌を見れば、援助状況や申し送りなどの必要事項がすべて分かるようになっており、日々の支援に活かしています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム湘南かさま
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		✓	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	✓	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		✓	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		✓	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域と事業所との関係性を重視した理念を大切にしている 理念が日々のケアに活かされているか確認しあっている	事業所およびユニットごとの理念を掲げて実践しています。職員は毎朝唱和して共有すると共に、忙しい時に効率化を優先し利用者への声かけや支援がおろそかになっていないかを振り返り、日々確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の学校、祭などの行事に積極的に参加している 隣接の障がい者施設の入居者や近くの保育園児の交流を大切にしている	町内会に加入しており、盆踊りや老人会などの行事に利用者と共に参加しています。また、近隣の障がい者支援や高齢者施設、保育園とも互いに行き来し合い、地域のボランティアの来訪もあり、地域との良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	音楽療法は、隣接の障がい者施設の入居者との交流の場であり、イベントのお誘いも受け、出来るだけ希望する入居者をお連れ出来るよう心掛けている	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で取り上げられた検討事項や評価結果などを報告し意見を頂いている 活発な意見交換を行い、また助言を頂きながら、より良いホーム作りに努めている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、連合町会々長、町内会々長、社会福祉協議会々長、区役所職員、地域包括支援センター職員、民生委員、障がい者支援施設職員、保育園々長、家族、入居者など多数の参加者があり、有意義な情報交換の場となっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	認定更新の機会に市担当者へ利用者暮らしぶりやニーズの具体を伝え、連携を深めている。運営推進会議にも参加頂き、ホームの実情を見て頂いている	区役所および地域包括支援センターとは、運営推進会議以外にも、困難事例や生活支援が必要な人、地域との連携など、多岐に亘って共に情報交換し、協力し合っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の安全を確保しつつ、抑圧感のない暮らしを支援するため、管理者や職員が意見を交わし、一人一人に合った方法を模索し、家族にも納得をもらっている	職員は研修を通じて身体拘束をしないケアについて理解し、実践しています。管理者は、全体会議の場をはじめ、毎年研修を行い、レポート提出や「チェックシート」により振り返りをしています。転倒の危険がある利用者へのセンサー設置や言葉による心理的な苦痛についても確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会など実施し、高齢者虐待防止法について学ぶ機会をもち、虐待がないよう理解の浸透、その遵守に向けた取り組みを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修などの機会をもうけ、職員への理解を深めるよう努めている 家族には、必要に応じて成年後見制度について情報提供を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用料金や起こりうるリスク、重度化への予測、看取りについて対応、医療連携体制について、時間を十分にとり詳しく丁寧に説明を行い、家族の理解を得て同意を頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族には毎月のお便りや、家族会など訪問時にコミュニケーションをとり、家族から出された意見・要望は管理者・職員が話し合い、日々の業務の運営に反映させている	家族会があり、年に6回ほど懇親会とイベントを行う中で家族の意見や要望を聞いています。法人でも毎年「お客さまアンケート」を実施しています。また、家族の来訪時、利用者との日々の生活の際にも聞いて運営に反映させるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が自由に意見が言える様な雰囲気作りを大切にしている。全体会議、フロア会議、朝礼、家族会反省会、暑気払い等意見や提案を尋ねる機会を設け、運営に活かせるよう努めている	管理者は個別面談以外に日々職員と気軽に話し、意見や提案を聞いています。休憩時間についての要望には勤務シフトを変更するなど検討しています。法人でも毎年職員アンケートを実施し、意見や課題などを把握し、対応に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	正職者はスキルアップ評価を実施。半年に1回評価についての面談を行い、非常勤にも自己評価をしてもらい、管理者のアドバイスを受け乍ら、自己研鑽を行ってもらっている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新卒の職員には、まず社会人としての心構えを身に付けてもらい、実習生として、細かく丁寧に指導している。メンタル面でも、不安が無いかどうか表情等も観察しながら、意欲的に取り組める雰囲気作りを大切にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内で施設長会議、中途採用者研修を実施している。法人内のグループホームの職員間で、活発な意見交換を行っている。他の施設の良い点を参考にしながら、質の向上に努めている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に多方面から情報収集を行い、心身の状態を把握しながら、本人の思いをしっかりと受け止め、コミュニケーションを図りながら、本人に安心感を与えるよう、信頼関係の構築に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの苦勞を勞い、今迄の経過をじっくりと伺いながら、共感し最初の関わりを大切にしている。家族と早い段階で信頼関係を築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族・入居者とのきめ細かなアセスメントを通して、希望する他のサービスにも対応している。また他のサービスに繋げるためのネットワーク作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援する側される側という意識を持たず、暮らしの中で共に分かち合い、共に支え合う関係作りに努めている。また安心して、穏やかに一日を過ごして頂ける様な支援を常に心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族が築き上げた絆を共感しながら、家族と共に本人を温かい心で受け入れながら、共に支える姿勢で肩の力を抜いた、自然な関係性を目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域で暮らす友人との関係を大切にし手紙のやり取りに協力したり、家族の家に気軽に居られる環境作りに努めている。	利用者は、友人と喫茶店に行ったり来訪時に部屋で過ごしたりしています。また、家族と出かけて外食したり泊まったりしています。利用者の要望で家族の電話を取り持つなど、馴染みの関係が続くように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係が上手くいくような声掛けを、常に行っている。職員が適宜介入や調整を自然な形で行いながら笑顔のある生活が出来るよう心掛けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の病院に転院された入居者に会いに行ったり、その後の経過を伺ったり、家族が気軽に立ち寄ったり、連絡したりできる様な関係作りに努めている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声掛けや入居者との会話からコミュニケーションをとり、入居者の言葉や表情から確認するようにしている 職員全員が入居者の一人一人の思いや要望に耳を傾け、受け止める事を心掛けている	職員は日々の生活のふれ合いの中で、利用者の言動や表情などから、思いを汲み取るように心掛けています。また、その日の気分や調子を把握し、一人ひとりと大切に接するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族が来訪された際、積極的に話を聞くようにしている。プライバシーの配慮を行い、過去の情報収集を家族に協力頂き、情報を出来るだけ集め、個別のアセスメントを作成して、個々人の生活に活かす支援を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今出来ている事に着目し、有する力を出来る限り発揮できるよう努めている。職員間で一日の様子を細かく確認し、新しい気づきを得ながら、その日の心身状態を、総合的に把握できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を職員でカンファレンスを行い、確認共有している 個別の介護計画に努め、家族にも伺いながら本人がより良く暮らす為のケアをチームで作成している	介護計画の作成には、利用者の日々の様子や変化を記録した気づきシートを活用し、フロアカンファレンスやサービス担当者会議で利用者の生活や状況を話し合っています。医師や看護師の見解および家族の要望を加味して介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	排泄表を記入し、その日の様子の変化、状態を申し送りし確認している 心身の変化や早期発見出来るよう、職員間・訪問看護と情報を共有し、体調管理に努め、必要時は主治医の指示を仰いでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	柔軟な支援に取り組む手段として、訪問歯科・訪問マッサージ・音楽療法を取り入れている。また要望に応じ訪問理容を実施している。家族会は地域のボランティアをお招きし、入居者・家族に大変喜ばれている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議、音楽療法の際、近隣の施設の入居者と交流し、協力関係を築いている 町内会の連合会長・町内会長・地区社協会長・民生委員・社協事務局長など多彩な地域の方たちとの協働がある		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月訪問診療に来て頂き、家族も来訪され、直接話をされ、密に関係を築いている 眼科受診等家族の選ばれた病院に通院して頂いている	協力医療機関の内科医師が月1回往診に来ています。希望があれば歯科、皮膚科の医師が来てくれています。訪問看護師とは24時間オンコールで、何かと相談でき、必要なら医師へ繋げてくれます。職員も家族も安心できる体制となっています。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と連携をとって、日々の少しの変化も伝えて良くなる方向への助言をうけ対応している 体調の状態変化を把握し、急変時の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された入居者が戻って来られた時に安心して過ごせるよう、施設長を主に情報を共有している 医療・訪問看護との情報共有を強化しながら、スムーズにホームでの生活に戻れるよう支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	職員が医療関係の方々と連携し、その方の情報を共有して本人、家族が不安のない日々を過ごせるよう対応している	「看取りに関する指針」があり、家族と「看取りの確認書」を交わしています。看取りについては家族の協力を前提とし、医師と連携して支援しています。職員は看取りの前に研修を受け、その後振り返りを行っています。十数例の看取りの経験があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜勤時の緊急時対応等、いざという時に慌てない様、危機管理マニュアルに基づき、全体会議やカンファレンスで再認識し合い、全員が実践力を身に付けられるよう努めている。AED講習会も積極的に行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を実施している。また消防署の方や地域の方々、家族にも立ち会って頂き、助言を頂いている。防災マニュアルも適宜更新している。 水害時の避難訓練も実施している	年2回、避難訓練を実施しています。内1回は消防署も立ち会っています。いたち川が近く、危険水域に達したら早めに2階へ移動することになっています。備蓄は法人が食料を管理し、事業所は水を中心に3日以上用意をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心掛けている 自己決定しやすい言葉かけに努めながら、プライバシー保護や守秘義務の周知徹底を心掛けている	細やかな個人ケアの徹底を心がけ、本人の意思を尊重し、思いに沿った支援をしています。排泄や入浴などで気が進まないような場合でも無理強いせず、落ち着くタイミングを待って声かけをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が決めたことを押し付けるのではなく、色々な案を考え、ご自身で決めて頂けるように努めている また職員間で情報を共有しながら、それぞれに合った声掛けを心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の目線に合わせ、入居者の様子を常に観察しながら、一人一人のペースに合わせた暮らしの支援に努め、個々に希望に沿った暮らしを、柔軟に対応出来るよう心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一人一人の拘りのスタイルを大切に、その人らしい身だしなみや自分好みのおしゃれ出来るよう支援している。 意思疎通困難な方には、整容の乱れ、食べこぼし等清潔保持出来るような支援を行い、毎日を気持ちよく生活して頂けるよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人一人が美味しく召し上がれるように、声掛けやご自身の食事のペースに合わせてお手伝いをしている 定期的に新しい食器を購入し、気分を変えて頂き喜んで頂いている	職員の負担軽減のため、調理済のレトルトの食事を提供しています。飲み込みのよくない人にはハンドミキサーでつぶしたり、とろみをつけ、また、おいしく食べられるよう味を確かめています。月2回特別な食事もあり、楽しんでいきます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の一日の栄養摂取量や水分の確保に目を配り、介助するスピードのタイミングを計り介助をしている 出来るだけ自分で召し上げて頂けるよう声を掛け、個人の食習慣も大切にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自立度に合わせ、毎食後自発的に口腔ケアが行なえるよう支援している。また定期的に訪問歯科を利用し、口腔ケアの実施や口腔内の清潔保持の為のアドバイスを医師や衛生士より頂いている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄のお手伝いをし、スムーズな介助、自立に向けたトイレ介助を行っている プライバシーに配慮しながら、排泄チェック表を活用し、一人一人の能力に合わせた残存を活かした排泄支援を実施している	トイレは各階に車いす用の広いトイレが1ヶ所、普通のトイレが2ヶ所あります。排泄状態を観察し、排泄チェック表に記入しています。立ち上がりやそわそわするなど様子を察して声かけし誘導しています。夜はポータブルトイレを使用する人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便が出来るよう、水分量の確保や乳製品等を提供し、レクリエーションに短時間でも運動を取り入れ、便秘の原因を見極め、なるべく薬に頼らない支援を心掛けている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者の生活習慣を大切に、自己決定出来、入浴を楽しんで頂くよう支援している。浴室や湯の温度に注意を払い、沐浴剤を使用して、リラックスして入浴出来るよう支援している	1階2階とも普通の浴槽で、壁面には手すりが付いています。機械浴槽の設備がない事もあり、重度の利用者には2人介助で、足湯をしたりシャワーで温まってもらっています。湯はその都度交換し、入浴剤や季節の湯でリラックスしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の生活習慣を把握し、日中の活動を促しながら、夕方からの過ごし方が落ち着いたものになるよう、安心して眠れる環境整備をチームで取り組んでいる。体力に合わせ、日中の臥床の支援も行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者一人一人に使用されている薬の目的や副作用・用法用量について理解し支援している カンファレンスでは、職員が個々の服薬に対する理解と知識を深め、変更には確認を全員が共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者に役割や楽しみを一緒に実施し、喜びがある日々を過ごせるように努めている また気分転換にレクリエーションを実施し、生活にリズムをつける支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の友人や家族の希望に添って出掛けられるよう外出支援している また家族が本人の希望を聞き、散歩やファミレスに連れ出して下さり、好きなおやつを召し上がって頂いている	重度化が進み、車に乗ることも難しくなっており、現在は全員での外出は難しい状況です。その日、天気が良く、体調もよければ隣の障がい者支援施設の中庭まで職員と一回りしてきましたりしています。家族の協力でファミリーレストランなどにも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員はホーム内での利用者の現金は事務所で預かり、友人と買い物や喫茶店に行く方には、その都度お小遣いをお渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	「家族や友人に電話したい」と言われた時は、プライバシーに配慮し居室で掛けて頂いている。家族に電話したいとの訴えあれば、何度でも電話し、家族と協力しながら、話をして頂き不安を取り除いて頂いている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は、車椅子が殆どなので移動が出来るスペースを確保しつつ、一人の方が掴まり棒につかまりながら、歩きやすいように気を付けている。1か月毎に季節を感じてもらえるように、月替わりのタペストリーを壁に飾ったり、手作りの切り絵の額を一階から二階に上がる階段の壁に飾っている	窓から日差しが差し込む明るく広いリビングルームです。大きなソファとテーブルを配置しています。壁面には季節のタペストリーや誕生会の写真、「今日は何日」という大きな日めくりが飾られています。利用者はソファに座ってテレビを見るなど寛いでいます。清掃もよく行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相性の良い人との席の配慮を行っている。個々のペースに合わせ、心地よい場所で過ごして頂けるよう努めている。また思いを伝えられない入居者に対しては、表情等でキャッチし、居室に戻って頂いて、寛いで頂く誘導を行っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に自宅で使われていた家具や衣類、小物、化粧品等持参して頂き、自立度の高い方は、テレビやラジオ等持ち込んで頂き、居室が自宅と同じ様に過ごせるよう配慮している	照明、エアコンが備えられています。その他、ベッドやカーテンなど必要な家具は自宅から自由に持ち込み、家族が配置しています。居室担当職員は利用者の状態をよく観察し、必要な支援をしています。それぞれ落ち着ける居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の出来る事出来ない事を見極め、移動時等、手摺りの使用や手引き歩行、後方からの見守り等その方に合わせた安全な移動方法を見極め、自立した生活が送れるよう支援している		

事業所名	グループホーム湘南かさま
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		✓	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	✓	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		✓	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		✓	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝の申し送り・引き継ぎの時、ホームの理念、1階2階の理念読み上げ、再確認している。理念に基づいたケアを目指している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	敬老の日や盆踊り大会など、ご家族も含め参加し、地域の一員としての交流を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の様々な研修や会合に参加している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	管理者は定期的に地域の者との交流、話し合いを行い、現状やホームの在り方を報告している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	認定更新の機会などに、市町村担当者が来られ、連携を深めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	家族等の理解と納得、話し合いを大切に状況変化に応じている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会を毎月実施し、遵守に向けた取り組みを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度の勉強会がもたれた		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、ケアに関する取り組み、退居を含めた説明を行っている。状態の変化も説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時の問いかけ、コミュニケーションや定期的なお便りを出している		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議と内部研修、施設全体として共有すべき運営上の課題について、毎月1回話し合いの場を設けている。また、日頃より職員間で情報共有、意見交換を図るよう心掛けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	慢性的な人材不足もあるが、出来るだけ休憩時間を取る事を意識しながら、業務にあたる為の緊張感、意欲を出来るだけ失わないような労働環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員の育成については、職員の資格、経験等を見ながらも、その人の人となりを一番に理解するように努め、長期的であってもその職員の成長に期待し、育成に努めている。毎月内部研修は行っているが、外部研修への参加は見送られることが多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に参加し、定期的に行われる発表には、出来る限り参加している。同一事業所において、研修生の受け入れも行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始前の面談において、生活歴、心身状態をお聞きする以外にも、ご本人様の思いに耳を傾け、その思いに沿い、安心して過ごせる支援が行なえるような関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用開始前の面談において、ご家族様のこれまでのご苦勞や、ホーム入居を決断されるまでの経緯について話を伺い、ご家族様が求めていることを理解し、今後も話しやすい関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現段階で入居者様に必要なこと、思い、状況等を核にし、入居者様、ご家族様との相談を繰り返しながら随時改善に向けた支援を提案し、信頼関係を深めていくよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員としての立場にとらわれず、客観的に状況を把握できる距離感を保ちながら、入居者様と共に生活していく、ご家族様に次ぐ馴染みの関係となるような信頼関係を築いていくよう努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の状態を毎月のお便りにて報告し、入居者様とご家族様の絆を深められるよう、情報共有を行い、ご家族様と共に、入居者様を支えていく支援をしていくよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人様が来訪時には、施設保安上の確認をさせて頂き、ご本人様の気持ちに沿うよう随時ご本人様に面会の許可をお伺いし、了解の上で訪問を歓迎し、交流して頂くよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一番長く他者との接点となる場となる食席の配置などは、利用者様の状態や関係性を日頃の支援から理解し、入居者様達が穏やかに過ごせるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、ご家族様自らその後の状態の報告を頂いている。入居者様、ご家族様の状況を理解し、支援が必要な場面では相談に応じている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より入居者一人一人の状態を理解することに努め、ご本人様が、どこで誰と、どのように過ごす事が最良であるかを、色々な状況において判断することに努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様との日々の関わり、コミュニケーションにおいて、その人なりの生活環境、暮らし方での「こだわり」を理解し、その人らしさを尊重するよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の状態を把握しながら、日々の行動において小さな変化を感じ取り、柔軟に対応できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	サービス提供者会議において、出席する職員からの気づきや意見等、話し合いをし、入居者様の思いを反映した介護計画を作成するよう努めている。また、日頃の支援の中からも、職員、医療関係者との情報共有に努め、意見提案について検討をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様それぞれ個別に日々のご本人様の状態を記録し、職員間で情報共有をし、小さな変化も把握できるよう心掛けている。また、特記した内容は気づきシートに記載し、必要に応じてカンファレンスにおいて話し合いを行い、意見交換をする		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々変化する入居者様、ご家族様の状況・意向にそうよう、事業所として可能な限りの協力をはかりながら、臨機応変に対応できるよう心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個別での訪問マッサージの利用を毎週、協力関係のある訪問理美容サービスを2か月に1度利用している。地域社会との交流も心掛け、町内会の催し等にも積極的に参加できるよう、ご家族様にも協力して頂けるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	24時間体制の医療との連携を保持しながら、入居者様の状態に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週1回の訪問看護を受けられており、日々の入居者の状態を報告相談し、急変時の適切な受診や看護を受けられるよう、24時間体制の医療連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医・訪問看護との医療連携が適切に行えるような24時間体制の連携があり、入退院時には、入居者様の状態やご家族様の思いに沿えるような情報交換や相談が出来るよう心掛け実践している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居前の面談より、入居者様の状態の変化に応じた対応（重度化や看取り）についての説明を十分に行い、方針をご家族様と相談し、他職種との連携も行いながら、入居者様の思いに沿った支援が出来るよう実践している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に研修を行い、急変時の対応、事故発生時の対応については全職員の理解を深めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な研修を行い、災害対策については地域（町内会など）との協力体制、管轄消防署との協力体制をとり、定期的に災害時における避難訓練などを行い、迅速かつ確実に入居者の安全を確保できるよう全職員の理解を深めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	定期的に「認知症への理解」「接遇マナー」「高齢者虐待」等についての研修を行い、入居者様の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思表示や自己決定が出来ない入居者様に対しても、その仕草や表情から読み取ったり、自己決定しやすい声掛け、コミュニケーションをとるよう心掛け、入居者の気持ちに寄り添った支援をするよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日頃から入居者様の状態を理解し、その人らしさを尊重した生活の在り方に配慮しながら、入居者一人一人に合わせた支援をするよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみは自己表現の一つととらえ、本人のこだわり、個別性に配慮し、その人らしさを保てる支援を心掛けている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様一人一人の状態を把握し、口から摂取する力を維持できるよう、食事の提供形態を工夫したり、好みに合う味付け、その入居者様の力に合わせた配膳など、常に楽しく、美味しく召し上がれるよう配慮しながら支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者様それぞれに合わせた食事量、提供形態に配慮し、食事を提供するよう支援している。水分量については、入居者様の状態やトータル摂取量の状況も考慮し、随時摂取出来るよう声掛けを行い提供し、必要量の確保に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	日頃より入居者様の状態を把握し、一人一人の口腔状態、口腔ケアについての個々の力に合わせた個別の対応を行っている。歯科医による指示がある場合には、特に配慮し、口腔内の衛生を維持出来るよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄介助が必要な入居者様の場合、一人一人の排泄パターンを理解し、タイミングを計り、自尊心に配慮した排泄介助を行っている。また、自立した入居者様の場合でも、失敗された場合には、自尊心を尊重したケアを心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給、服薬による調整、日中臥床している入居者がいないよう、なるべく離床を促し、体操への参加など、身体を動かして頂くなどの声掛けを心掛け活動的になれるよう、支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日や時間帯への配慮は難しいものの、入居者様それぞれの入浴へのこだわりを配慮し、体調を考慮しながらも気持ちよく入浴できるよう支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の日中の状態、状況を理解し、随時休息を促すよう支援している。特に就寝時においては、なるべく静かに対応をするようにして、ご本人様、他の入居者様も落ち着いて入床出来るよう心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様それぞれの服薬する薬の効能、副作用等を理解し、いつでもその確認が出来るよう服薬ファイルをフロアに常備している。服薬に関する変更、減量等の特記については職員すべてに周知され、経過観察を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様皆さまに役割や張り合い、達成感などを感じて頂けるよう、個別にそれぞれの方の力に合わせた活動を支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な外出支援は、ご家族様の協力が必然であり、協力が頂ける場合に限りに行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の所持は、入居者様個人では行われていない。小遣いとして事業所において預かる形式をとっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様本人による手紙のやり取りは行えていない。ご家族様あてにおいては、入居者様の希望に応じて電話をかけて頂くよう対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアにさり気ない折り紙などの工作を飾り、心を和ませる工夫を行っている。また、洗面台には、季節感を味わって頂くよう、季節の花を飾って入居者様に居心地よく過ごして頂けるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の席においての歓談の外に、ソファーに入居者様同士で坐り、テレビを見ながら井戸端会議に華を咲かせる空間がある。歓談以外にも、おのおの読書を楽しまれたりと、自由に思いのまま過ごされる配慮がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様一人一人に居室があり、居室内には、今迄使い慣れた家具、寝具等を配置し、入居者様が居心地よく過ごせるよう配慮がされている。居室内の清潔保持については、ご本人様と一緒に職員がその保持に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様の生活動線において、転倒などの事故がないよう配慮した物の配置を心掛けている。各居室入り口には、各入居者様の名前を示し、混乱ないように努めている。日中家事手伝いなど、入居者様の力を把握し、お手伝いをお願いしている。		

2019年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム湘南かさま

作成日： 令和元 年 12 月 22 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		職員の高齢化が目立ち、50代と60代の者が多い。世代交代の時期で、なかなか60代の雇用の見直しが出来ていない。40代以下の採用が必須。管理者となれる人材の育成	かさまを背負って立ってもらう若い世代に即戦力になってもらう為、体力的に難しい職員の雇用契約の見直しを実施し、若い職員の採用を行う。	本社と連携し、40代以下の職員の確保。60代の夜勤を減らし、短時間の雇用契約に変更していく。	12ヶ月
2		殆ど入居者全員が屋外は車椅子移動の為、なかなか職員だけで、外出支援が出来ない状況にある。	家族会の花見以外にも、散策の企画を立て家族に協力を得ながら、少人数でも散歩の機会を設ける。	家族会の大規模ではなく、1Fと2Fのユニット別や、少人数の散歩など、家族の協力を得ながら実践していく	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月